

<報告・記録>

幼児教育の領域「環境」に関する授業の実践報告

—— 植物と関わる保育での学生の体験と感想 ——

堀 尾 邦 子

(Kuniko Horio)

東亜大学 人間科学部 心理臨床・子ども学科
horio@toua-u.ac.jp

《要 旨》

幼児教育の領域（環境）の授業で、野菜作りを取り上げた。実際に野菜を育てながら保育環境の準備・保全・観察、乳幼児との交流を通じた保育者としての関わり方等々、学生にとって学ぶことの多い授業である。活動は未だ途中であるが、現況を報告する。

キーワード：幼児教育，環境，野菜作り，乳幼児との交流

1. 本報告のねらい及び内容

本授業の一般目標として「領域『環境』に関する乳幼児の育ちの目標，ねらい，内容を理解し，ねらいを効果的に達成するために必要な乳幼児の発達特性，発達の様相についての理解を深める。また，生きものや植物に親しみと関心をもち，自然物を遊びに活用する楽しさがわかり，保育に活用する方法を理解する。さらに，乳幼児の感覚，思考力を育てる保育実践について理解し，乳幼児の数量感覚の発達に関する知識をもち，具体的な保育方法を知る。現代の環境問題など，保育にかかわる環境教育の課題がわかる」とある。

そこで領域「環境」の目標達成に向けて，今年度も，「野菜作り」を実践することにした。この活動を通して，乳幼児は動植物などの自然に触れて親しみをもち，興味関心を抱き，育ちゆく野菜の姿に喜び，野菜の種類により育ち方や大きさ，形，実った時の野菜について，違いがあることにも気づいてくる。さらには実った野菜の数量についても関心を持つと考える。野菜作りを通して，様々なことを学ぶことができる活動であり，良い教材であると考えられる。

また，学生は，乳幼児と共に活動をしながらその姿を理解し，より良い保育を計画実践することができるようになると考える。

2. 「植物と関わる保育」の実践内容

本授業の中で，自然に親しむ活動として「野菜作り」をすることを学生に考えさせた。学生は概ね農業には疎遠で，野菜作りの経験も小学校以来殆ど無いので，野菜作りの計画を立てることから始めた。種まき・苗の植え付け，水やりや支柱建て，野菜の成長や実のなる時期など凡そ考えて，全体計画について理解した。

そこで以下の手順で野菜作りに取り組んだ。

2.1. 野菜作りの経過

畑の広さや，種まき・収穫の時期を考慮し，野菜作りの計画を立てた。畑の予定地の雑草抜きや整地（ボランティアの支援），野菜の選択と準備，折々に雑草抜きや水やりと観察等々，様々な体験を重ね，野菜を作る大変さや野菜の成長に気付き，喜ぶ気持ちを実感した。学生自身の体験から，乳幼児の本活動に関する喜びや感動に思いをはせ，本活動に関する保育につい

でも考えることができた。学生自身が活動を体験することで、乳幼児の考えを推測することができ、より良い保育を目指すことができると考えた。

2.1.1. 野菜の選択, 計画 (4月)

「5月ごろに植えて7月中旬に実がなる植物で、子ども達も喜びそうな野菜を植えよう」と学生に考えさせて、「キュウリ、ミニトマト、サツマイモ」を選択した。キュウリは種植えから始め、ミニトマトは苗を植えることにした。秋に実がなるサツマイモも、子ども達に大人気なので苗を植えて育てる事にした。

そして構内の敷地にある小さな畑を見て、まず、雑草を抜こうと作業を始めた。手作業なのでうまくいかず、気分だけは雑草抜きをした気持ちだったようだ。

実は、地域のボランティアの方が、畑作りを休みの日に手伝って下さり、本格的によく肥えた真っ黒い土の、畝も立派な畑ができた。



図1 ボランティアによる整地



図2 キュウリの種蒔き

2.1.2. 野菜作りの実際 — 種・苗植え付け, (5月)

4月23日、ボランティアの方に整地して頂いた畑で、雑草抜きとキュウリの種を植えた。1つのカップに1つずつ1cm程度の小さな種を40粒蒔いてみた。芽が出ますようにお願いしながら学生は水やりをしていた。

ゴールデンウィークの後、5月10日には、大きくしっかりした双葉とその間に小さな本葉が出てきているのを観察した。保育をする時は、小さな気づきを大切に、みんなにも分かるように声掛けをしたいという学生の思いが観察ノートに記入されていた。また、虫食いに合っている双葉があったので、虫除け対策を野菜作りに詳しい人に教えて頂き、防虫用のドーム型のかぶせ物を見つけた。これも畑作りが趣味の方のお知恵拝借である。

5月14日には、学生は、自分の好きな、大きく立派に育ちそうな苗を1つずつ選んで畑に植えた。乳幼児と同じように自分の苗には名前を付けていた。

キュウリには、漬け物・ピクルス・チビ・葉緑体クン、トマトには、リコピクミン・あさずけ・トマト・アイコ（アイコトマトなので）と命名していた。



図3 キュウリとトマトの苗植え



図4 雑草抜き

5月21日には、サツマイモの苗を植えた。サツマイモには、薩摩・さつまはん・スイートポテト等々の名前がついたようだ。

なお、5月の金曜日は雨天続きでなかなか保育園の幼児たちに来てもらうことができずに非常に残念だった。学生たちは、自分の種や苗に愛着がわいたようで、成長の仕方は少しずつではあるが、「丈夫に育って」、「大きくなあれ」という思いを抱いているようだ。

2.1.3. 経過観察と乳児との交流（6月）

5月末から気温が上がり、雨の日も多く、草花がよく育つ環境であった。畑の野菜もあつという間に成長した感じがした。学生の観察によ

ると、6月4日には、キュウリは10cm～15cm くらいの背丈になり、1枚の葉の大きさがとても大きく成長したようだ。縦にも横にも大きく成長したという感想もあった。



図5 野菜の成長



図6 トマトの花が咲きました

トマトの方は、20cm～30cmほどの背丈になり、葉の数も随分と増えて100枚以上ついているものもあり、成長の速さに驚いているようだ。また、全員のトマトの苗に小さな黄色い花が1～3個咲いていた。無事の成長を願っている感想もあった。

6月4日は、珍しく小雨が止み、保育園の幼児達が3人、母親と先生がついてきてくれて、5人しかいない学生よりも人数が多く、一気に

にぎやかになった。幼児達は2歳前後でまだ十分話せないけれども、それなりに学生との交流はあったようだ。以下の写真に幼児の様子と学生の対応・気持ち、保護者の思いなどを書くことにする。



図7 乳幼児との交流
「やってみる？」

(学生)：「ドームを被せてみる？」

(幼児)：黙ってじっと見ている。

「やってみたいけど少しだけ不安だなあ」

「これ何なんだろう？」

「どうなっているのかなあ」

という表情



図8 乳幼児との交流
ながーいミミズだよ

(学生)：「見て、見て、ミミズだよ。」

(ミミズへの興味関心を引き出してみずからかかわるようにしたい。だが無理に近

づいて恐怖心を持たせたくない。)
(幼児)：困った顔で此方を見ている。

「これ、何だろう、変だなあ」

※「 」内は学生が受け止めた幼児の気持ち
()内は学生の幼児への思い

ささやかな交流ではあったが、乳幼児もお母さん方もとても喜んでくれたようだ。勿論、学生にもとても良い経験であった。今のところ、野菜は未だ実りの形には程遠く、一番早いトマトでもやっと微かに黄色い花が少し付いただけである。乳幼児からすると緑の葉っぱとしか認識していないと思うが、今後、野菜の成長と共に、乳幼児の関心も高まり、驚きや嬉しいという気持ちも明白になってくるだろう。対する学生も、乳幼児に対する気持ちや彼らの思いを理解し上手に対応することにも慣れてくると考える。

3. 本実践の途中経過と学生の意識

野菜作りという自然と関わる保育の実践は、4月の準備と計画、5月以降の雑草抜きや水やりなどのお世話と種や苗を植える事、そして継続観察であった。今後は野菜の成長と実りの様子を継続観察し、乳幼児の成長に気付き、良い方向に導くことができるように保育のあり方も勉強していく。

乳幼児との交流など、少し時間をかけて実践したところがある。しっかり考えて幼児理解を図り、丁寧に活動することで学生の気付きも増え、幼児理解もさらに進んでいくようだ。

授業の最初は土に触り慣れない畑仕事や観察ノートの記録、また、乳幼児との交流などについて杞憂したが、学生は、どの活動も滞りなく進め、しっかり考えて必要な行動がとれている。野菜作りに関しては、本人たちも小学校時代を思い起こしたとか、久しぶりに土に触れて懐かしさを感じたとか、また、野菜の成長ぶりに驚いたり、今後の成長を楽しみにしたりしているようだ。何より、乳幼児という日頃接する

ことのない子ども達と出会っても、臆することなく乳幼児の気持ちを考え対応できているところが素晴らしいと思う。乳幼児の気持ちを推測する時も、保育者目線でしっかりと考えることができている。

3.1. 各活動の学生の感想

「『環境』って何を勉強するのですか。」という学生に、シラバスを見て説明をし、今年度も例年やっている植物と関わる保育の一環として野菜作りを取り上げると説明した。学生にとっては身近なようであるが、意外と小学校の生活科でアサガオやミニトマトを育てた経験以来、全員植物を育てた経験はなかった。以下は、各活動における学生の感想、思いである。学生のほんの一部の感想である。

(5月14日)

- キュウリの芽が出ていた。双葉の間から本葉が出て、植えから発芽迄スピードが速く、すくすく育っていると感じた。
- 芽が出た苗を選び畑に植えたことで愛着が生まれた。他の芽も発芽と成長のスピードが速く驚いた。虫に食われているものがあり、虫よけネットがあればよいと思った。園児がいれば、「何の苗かな?」とか、「しゃきしゃきの大きいキュウリができるといいね。」などと話しかけたいと思う。きっと好きか嫌いか答えてくれると思う。
- 発芽したキュウリの種を畑に植えることは、かんたんにできました。芽がかわいかったです。思ったより根が伸びていました。
- キュウリのピクルス君の芽が出た、葉が大きくなった、根が生えていた、本葉も生えた。そして土からいっぱい虫が出てきた。

(5月18日)

- 小さな子に「これ何の苗だと思う?ミニトマトの苗よ、ミニトマトがなるんだよ、トマト好き?」等々、いろいろ話しかけてみたい。また、赤い実が出来たら「大きくなあれと言ってあげてね」と話しかけると、小さな子はきっとトマトに話しかけると思う。」と保育

実践の場を想像していた。

- キュウリの真ん中の葉っぱの下によく分からないものが出来ている。成長するのが楽しみ。葉が大きくなった。

(5月21日)

- トマトの苗は、キュウリと違い、背が高く葉の数も多かった。最近の暴風と下関特有の強風で倒れたりしないか心配だ。葉っぱは以前より増え、順調に育っている。
- キュウリの本葉が大きくなり、ギザギザした葉になっていた。双葉の間にフサフサしたとげのようなものがついた芽が伸びていた。少しだけ虫に食われていたが、ドーム型の虫よけを被せている。
- ずっと以前にイモの苗を植えたことを思い出した。その時は収穫を前にして全てイノシシに荒らされてしまった。今回は山の中ではないのでそうならないと思うが…
- サツマイモの苗は、でっかい、葉が垂れる、いろはしっかりしている。
- サツマイモの苗を植えながら、小さい子に「大きくなったらお芋になるんだよ、大きくなったら一緒に食べたいね」と話しかけてみたい。きっと「いっしょに食べたい」と言うだろうな。
- 小さな子に「この苗は大きくなったら何になると思う、キュウリになるんだよ」と教えてやりたい。
- 苗の背の高さが思ったより高かった。ほかの植物と比べても一番の大きさだった。子どもは素直にその大きさに反応するだろうな。
- キュウリの苗の葉で虫に食われている部分があった。あまりこういった作業をする機会が無かったので、とても新鮮だった。
- トマトの葉がたくさんあった。幼児がいたら「葉がいっぱいよねえ」とか「おいしくなるといいね」など、興味が出るような声掛けをしたい。

(6月4日)

- トマトの葉がとても多くなっている。背が高いため育っている実感がわく。雑草が多いた

め、かなり抜いた。

- 昨日からの暴風雨の影響かトマトの苗が少ししんなりしていた。心配だ。
- 子ども達と距離が離れていて直接話せなくて残念だった。皆興味を持っていてくれたようだ。ドーム型の虫よけを外す作業を楽しそうにやっていた。自分で虫よけドームをあけられて満足気だった。今後は、是非植物に興味をもち、また、周辺の生き物や環境に興味をもてるように声掛けをしたい。
- トマトの苗に5月末には支柱が立っていたようだ。
- 小さい子が遊びに来た。小さい子だったからか、じっと苗や虫よけを見ていた。
- トマトがかなり大きくなっていてので成長の速さに驚いた。今日は子どもが来ていた。トマトやキュウリ、虫や他の事に興味津々な子もいた。
- キュウリの苗が、かなり大きくなっていてので成長の速さに驚いた。上に虫よけカバーをしていたので葉が虫に食われなくて安心した。

(6月11日)

- トマトの背がどんどん高くなっている。50cm程になっていた。さらに花が出来ていた。黄色い小さな花だった。
- キュウリの葉がまた大きく育っていた。さらに数も増え元気な様子。
- 葉が大きく色も良い。前回はそれ以前から間が空いて雑草がかなりの量だったが、今回は少なかった。雑草をこまめに抜くことは大事なことだ。
- トマトのアイコの背が高くなった。葉っぱもたくさん増えた。黄色い花が咲いた、うれしかった。

学生には、「保育者のつもりで野菜のお世話をすること、乳幼児に話しかけることも考えてみて。」と声掛けをすると、保育者の気持ちを観察日記に記す学生もいた。学生自身があまり経験しない活動であるが、小学校時代を思い起こし、野菜作りそのものも楽しみながら、保育

者視線も少しずつ考えるようになってきた。特に、6月4日に保育園の2歳前後の幼児が畑に来てくれると、保育者視線が強くなった気がする。観察記録に、そういった感想が少し増えた。

野菜作りを通して、学生は体験を楽しみ、乳幼児との交流を楽しんで保育者らしくなっていく一過程を経験している。

3.2. 様々な人々との交流・受ける支援

今回の野菜作りの活動実施に関していろいろな方からご支援を頂いた。野菜作りの苦手な私に、ノウハウを沢山教えて下さったT先生、畑作りに協力して下さったボランティアの方々、作物の成長具合を気に留めて、時々畑を見て下さるボランティアの方、一緒に来られて畑の様子や苗の成長具合を見て、「もう虫よけドームは外した方がいいよ。ドームの中で野菜が大きくなり窮屈そうでしょう。」とアドバイスを下さる方、沢山の皆さんに支えられていることを学生にも紹介している。そして、大学構内のすぐ横に隣接する「まあむ」の先生方、保護者の方々、遊びに来てくれる子ども達も、学生が良い保育者となるために、とても貴重な存在である。皆様に感謝しているところである。

4. 本報告の考察と今後の課題

本活動は、保育内容Ⅲ環境の授業の一環である。「例年畑で野菜作りをしていたのよ。」という前任者のアドバイスを受けて、自分の中で計画を作成し始めたが、畑も花作りもしない私には前途多難であった。そこに野菜作りが趣味というベテランの有難い先生のご指導を受けて計画を進め、授業中の活動も失敗なく進んでいる。

本授業は、前期のみであるが、7月いっぱい授業にもかかわらず、6月中旬までの授業実践の記録と報告という事で、今回の報告書を提出することになった。8時間の授業の記録であり、本来は、7月いっぱいまでまだ学生の活動は続く。しかも、小さな芽や苗ではなく、大きく成長したキュウリやミニトマトの実がどっさ

りなるだろうと期待しているが、その楽しい部分は今回の報告には間に合わず残念至極である。

学生は、本活動の模擬保育を計画中、来週には模擬保育実践の運びとなるだろう。他の模擬保育に比べて、自分たちで保育者目線で活動したり考えたりすることもあり、保育指導案が書きやすいということであった。

頭で考えるだけの机上の空論よりは、実際に畑のお世話をし、種や苗を育ていろいろな方の支援を受けながら、乳幼児に関わっていく経験

も学生にとっては貴重な経験であると確信する。

なお、今後の課題としては、この授業の最後まで、観察記録を行うこと、実がなり始めてからの保育園の乳幼児や保護者の方、先生方との交流も、また違ったものになるであろうし、子ども達と学生も出会う機会が増えると交流や関わり方も変わってくると考える。その時の乳幼児や学生の様子をしっかりとらえ、保育の授業に生かしていきたいと願っている。